

本会議質疑

岡村 勝

問 初期対策交付金について交付金制度の趣旨と内容について説明を

答 立地可能性調査に着手した翌年度から環境影響評価を開始した年度まで期間として国より年1.4億円交付される。また環境影響調査を開始した翌年度か

後藤 憲志

問 市民会館のリニューアルのための実施設計委託料について

答 耐震補強とともに、空調設備の更新、座席の改修、舞台床の張りかえ、外壁塗装、反響板の設置等を考えています。設計に当たっては老朽化の解消だけでなく、使い勝手のよい、使う人に優しい会館になるよう取り組んでいきます。

若杉 泰彦

問 臨時職員雇用事業について、事業費が減額になった理由と、その事で業務に支障はなかったのか

答 週40時間の臨時職員から週30時間未満の非常勤職員に変更したために減額になりました。また、正規職員との体制をとりながら臨時雇用をしているので支障はありません。

問 新聞、テレビで元気発見団イン御前崎を実施した効果は



増田 雅伸

問 職員研修事業の成果は

答 職員研修は職員個人が「気づき」を持つ事の意識づけとなり、意欲や意識改革及び資質の向上に繋がりました。

業務委託研修事業の具

問 経済情勢悪化に伴う奨学金返済方法等についての配慮と奨学生の就職先について

答 平成20年度の貸付未納額は8月現在9万円で、また19年度以前の関係はありませぬ。就職先については、年次ごと把握していませんが21年3月卒業の24名の内就職者13名で、市内1、県内6、県外6名です。

岩瀬 初代

問 路線バスの課題を検証し、利便性の高い効率的な運行を検討するとの事ですが、検討の結果と、直近の乗車人数の調査結果は

答 7月の乗降調査では、

7月の乗降調査では、

御前崎港の利用促進に

問 御前崎港の利用促進についてポートセールス実行委員会を中心に積極的に行っています。新規荷主への助成事業もあり、御前崎市、牧之原市の地元業者も御前崎港を利用しています。

問 コンテナ利用状況と今後の推移は

答 世界的な不景気により取扱量にも如実に現れていきます。昨年下半年より陰りを見せ始めました。本年上半期も大変厳しい状況が続いています。今後は助成制度の見直しもを行い、荷主の利用しやすい環境整備や支援対策も実施していきます。



杉浦 謙二

問 荒廃農地再生事業について、事業費が年々減少していますが、今後の事業のあり方は

答 初期投資の支援は継続したいと思いますが、自立していくことが理想だと考えます。荒廃農地は一時的

西島 昌和

問 福祉タクシー助成事業の交通弱者への対応は

答 対象年齢の引き下げで事業費は減少し、予算の有効活用は大きな課題です。自主運行バスの見直しと、タクシー券の必要な交通弱者へより厚い手当ができるかどうか検討します。

清水 澄夫

問 学校教育施設基金積立と浜中の整備計画策定は

答 計画的に基金積立をし、有効に使えるよう、教育行政の動向、市の財政状

福祉タクシー券扶助事業で昨年の決算から今回の決算を見ると500万円の減額となっている。それは枚数が減ったと理解するが、減額の理由は制度の後退ではないか。また、2月の議会で市側は住民の希望に沿った形で改正をしていくと答弁した。2回改正しているが、その都度後退しているのではないか。アンケートをとったかどうか

望月 ゆづ子

問 放課後児童クラブの利用者が19年度より20年度の方が増えているが、指導員は減少している。支障はないのか。また東小は3年生を断ったと聞いたが、その後の対応は

答 指導員の数は基準に沿った数となっているので支障はありません。東小の件は、その後定員に余裕が出

大澤 博克

問 保育園の給食材料費において1,000万円余の不用額が生じた理由は

答 市内4保育園の給食材料費ですが、生鮮食品等の仕入れ値の変動等を考慮すると、ある程度の購入幅が

曽根 正浩

問 市道頭山線の進捗状況と現在までの総事業費は

答 橋梁下部工は基礎工の施工が終わり65%の進捗率で現在までの総事業費は5億4,841万円です。

問 現在も沈下しているが今後の工事はどうするのか、完成予定はいつになるのか

答 市道頭山線の軟弱地盤対策につきましては、地質調査専門業者による調査と適切な対策工法を判断し安全性を優先します。完成予定は当初の計画より1年遅れの平成23年を予定しています。

ため3年生4人が利用しています。

問 緊急保育の利用者が19年度に比べ20年度は市立・民間とも減少している理由

答 利用条件の変更はありません。低年齢児の保育園の入所が5園で10人ほど増えている事から利用者が減少したものと考えられます。

必要となります。保育園の給食は必要カロリーが決まらされていて、価格による材料調整は簡単にできません。いずれにしても、今後園児に安全で安心して喜ばれる給食を提供できるよう努め、不用額もできる限り減らすよう努めます。

問 高齢者宅の家具転倒防止事業で地震後の確認は行ったのか、今後の事業展開はどのように考えているのか

答 地震後、民生委員に確認し、家具の固定を認してもらった良かった」という声が多かったと聞いています。今後は3年に1回程度の頻度で実施していきたいと考えています。

